

2017.11.25 岩国国際連帯集会 基調

私たちは第 12 回目の岩国行動を、2017 年米軍再編の完了という節目の年に行っています。12 年前、米軍再編計画の一部として厚木から岩国への空母艦載機移転が発表され、翌年 3 月に岩国市民が住民投票によって基地機能強化への圧倒的な反対の意思を表明した 2006 年の秋に、私たちは第 1 回の岩国国際連帯集会を闘いました。この 10 年余りの間に岩国で起こったことを振り返るとき、米軍と日本政府に対する強い怒りを禁じえません。

●東アジア最大級の米航空基地・米軍 1 万人の街を創り出す日米政府を糾弾する！

この 10 年余りの間に岩国基地は大きく拡張・強化されました。「滑走路沖合移設」のための土砂搬出が終わったとたん、2007 年愛宕山開発中断と跡地への米軍住宅建設が突然報道され、はじめから仕組まれていたと住民たちは糾弾しました。「沖合移設」で 1.4 倍に拡張された岩国基地には 6 千億円以上の思いやり予算が投入されました。国は岩国市民の不安を抑え込むため、岩国市に防衛予算をばらまいて「基地との共存」を演出するとともに、山口県への基地交付金を倍以上に増額し、今後 10 年にわたり毎年 50 億円が山口県に投入される見通しといます。こうして今夏の岩国市と山口県の「艦載機移転容認」表明が作られました。これらの血税は本来、福祉や教育に使うべきであって、ゼネコンを儲けさせたり、市民の口をふさぐのに使ったりすべきものでは断じてありません。

岩国基地では米国外で初配備となる F35B 最新鋭ステルス戦闘機が今年 1 月に 10 機、今月に入って残り 6 機が飛来して 15 日までに全 16 機の配備が完了しました。また 8 月からはついに厚木からの艦載機移転が始まりました。主力機種 FA18 スーパーホーネット等は 11 月から移駐を開始し、来年 5 月までに全 61 機の配備が完了するとされています。同時に、愛宕山に将校用米軍住宅(アタゴヒルズ)が完成し、愛宕山開発跡地もフェンスに囲まれた「米軍基地」になりました。一戸 7~8 千万円という住宅には「地下施設」が完備され、「核シェルター」だと市民の怒りを買っています。今年から来年にかけて岩国基地は戦闘機 130 機、嘉手納基地をしのぎ東アジアで最も多くの戦闘機が駐留する航空基地となり、米軍関係者 1 万人が駐屯し、旧岩国市の住民 10 人に 1 人が米軍関係者という「米軍の街」にされようとしています。

●岩国基地を朝鮮半島—東アジアへの出撃拠点にさせるな！日本の核武装を許さない！

さらに 2017 年は、朝鮮半島をめぐる米日の戦争圧力と軍事演習が繰り返されるなかで、米軍再編完了後の岩国基地が朝鮮半島への出撃拠点になっていくことが私たちの眼前で明らかになった 1 年でもありました。岩国に配備された F35B ステルス戦闘機は、朝鮮半島有事の際に投入されるもので、朝鮮半島北部まで 20 分で飛来できます。3 月の韓米合同軍事演習では、この F35B が朝鮮半島に初飛来して精密爆撃訓練を行ったのみならず、グアムの B1B 戦略爆撃機および空自 F15 とともに日米共同訓練を行ない、その後、B1B と F35B は韓米合同演習に参加して爆弾投下訓練をするなど、実質的な米・日・韓の合同軍事演習が展開されました。トランプのアジア歴訪は「現代版死の商人」の兵器セールス旅行でもありましたが、朝鮮半島は「アジアの火薬庫」であり、莫大な兵器弾薬が消費される大規模軍事演習は常に実戦と紙一重です。これを中止せずして平和交渉は不可能です。米日韓合同軍事演習に反対する全国的な闘いがますます必要になっています。

さらに岩国基地の大強化は、他の米軍・自衛隊基地の強化を呼び起こします。岩国に配備された F35B は佐世保に新たに投入される強襲揚陸艦への搭載がもくろまれています。岩国基地の強化は、佐世保など他の米軍基地の強化や、空中給油のための自衛隊基地の強化を生み出しています。また日本政府は、朝鮮民主主義人民共和国の弾道ミサイルへの対処を口実にイージスアショアの導入

を計画し、その配備先の候補の1つとして岩国基地のある山口県をあげています。さらに、Jアラートを鳴らし市民の危機意識をあおる安倍政権は、朝鮮半島情勢を利用して独自の核武装をめざし、京丹後 X バンドレーダー基地に近い若狭の原発を次々と再稼働させ、さらに岩国基地のある山口県に上関原発を建設することを目論んでいます。反基地と反原発を一体のものとして闘いましょう。

●広域化・無制限化する戦闘機騒音、相次ぐ事故、米軍犯罪への怒りを米軍基地撤去へ！

沖縄だけでなく、岩国でも米軍の戦闘機騒音や事故は増える一方です。東アジアへの出撃基地として岩国基地が強化されていくことは、同時に基地を抱える地元の人々が騒音被害や航空機事故、交通事故、米軍犯罪にますますさらされていくことを意味します。7月には訓練空域ではない岩国市街上空を飛ぶF35B戦闘機の爆音が深夜まで続き、一晩で155件もの苦情が殺到しました。これらの訓練は市街地を撮影して攻撃目標を定める、市民を敵とみなした訓練です。F35Bは、米国でクラスAの事故を起こしていたことが判明しています。危険な空中給油時の事故が多発していますが、2014年普天間から移駐されたKC130空中給油機は今も沖縄での訓練を続けており、「沖縄の負担軽減」などは大ウソです。7月には同型機が米国で16人死亡の墜落事故を起こしました。昨年12月の岩国基地所属FA18ホーネット高知沖墜落死亡事故の原因は結局不明のままです。事故続きの危険なオスプレイの運用拠点は、ここ岩国基地なのです。

アタゴヒルズから出勤する米軍による交通事故問題は深刻になるでしょう。米軍属の無謀運転による「愛宕山を守る会」住民の死が痛切に想起されます。2007年広島事件のような岩国米兵による女性への性暴力など米軍犯罪の増加・広域化も危惧されます。2006年住民投票が示した基地強化に反対する87%もの圧倒的な市民の意思を、これらの基地被害への怒りの噴出を、岩国米軍基地の撤去のエネルギ―へと転化するための闘いが求められています。

●闘いはこれから！岩国と全国ーアジアと世界を結び岩国闘争の新しい段階を切り開こう！

岩国市民の粘り強い闘いが続いています。「愛宕山見守りの集い」は、岩国市内以外にも爆音の被害を受ける周防大島、広島西部からも参加する大切な運動の拠点です。防衛予算のバラまきで岩国の福田市長は「基地との共存」を掲げていますが、岩国市民たちは“異議あり！「基地との共存」市民行動実行委員会”を立ち上げて、運動を広げています。

住民投票の年から始まった岩国行動では、岩国国際連帯集会在常にアジア太平洋地域の民衆団体を招請してアジア民衆の視点から岩国闘争を闘ってきました。そして、沖縄・辺野古での新基地建設阻止闘争をはじめ、京丹後、神奈川、横田、佐世保など全国の反基地運動との連帯を岩国闘争を通して前進させていくことをめざしてきました。また岩国・労働者反戦交流集会実行委員会の闘いは、労働運動の立場から岩国基地反対運動と結合してどのように闘うべきなのかを模索してきました。さらに3年にわたって希望の祭実行委員会が「岩国☆希望の祭」を盛り上げて、岩国から希望を発信してきました。また、ともに集会を作って行く過程を通じて、障害者をはじめすべての差別と闘う仲間との団結を作って行こうと努力してきました。

今年は、地元である岩国と広島県西部、そして韓国からの報告を受け、全国の労働者や、米軍基地や自衛隊基地、原発や被ばくと闘う仲間と連帯する共同闘争として、東アジアの平和を創る「2017岩国行動」をともに闘い抜きましょう！ また、岩国・山口・全国をつないで「平和に基地はいらない」「戦争の動きを止める行動を岩国から」と呼びかけられている明日の「連名方式でのミニ集会とデモ」に結集して、地元の皆さんとともに大きく成功させていきましょう！

そしてその全過程を通して、岩国基地の戦争出撃拠点化を強化し共和国への戦争策動を強めるとともに改憲-戦争国家化・貧困と差別排外主義を強める安倍政権を打ち倒していきましょう！